

■令和7年度 第1回山梨県立美術館協議会議事録

日 時：令和7年8月8日(金)13:30～15:00

場 所：山梨県立美術館講堂

出席者：委 員 高野孫左エ門、石田秀博、伊藤裕之、内田浩恵、大木貴之、
乙黒理絵、仲田道弘、中野宗夫、原田由起彦、堀内麻実、
三澤伊織、向山富士雄

事務局：(県立美術館) 青柳館長、和光副館長、天野次長、井澤学芸幹、平林学芸課長、
高野学芸担当リーダー、太田普及担当リーダー

(指定管理者) 支配人、マネージャー

(県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課) 田原総括課長補佐、早川主事

次 第： ・開会

・会長挨拶

・館長挨拶

・議事 報告事項 令和6年度 事業報告

令和7年度事業報告及び予定について

その他

会 長 今の事務局からの説明についてご質問等ございましたらご発言よろしくをお願いします。

ないようなので、私から1つ。前回の協議会の際に、レストランが話題になりました。実際にレストランの利用状況、あるいはおいでになられたお客様にとっての利便性などの付加価値の有無をどんなふうに評価されているのか、もしおわかりでしたらお伺いしたいと思います。指定管理の話じゃないですね。

支配人 指定管理からはレストランの運営は外れました。

会 長 美術館に用事がなくても来られるようなレストランにしたいとか、もうちょっと地場産の材料を使ったメニューを考えようとか、どうせやるならベーシックなメニューに関しては品質を高くしようとか、という話があればですけども、実際に利用客数とかどのぐらいなんでしょう。つまり指定管理を外した意味があるのかということ、ちょっと知りたい。

支配人 指定管理の方でも人数の方は聞いています。令和 6 年度 5 月からの 11 か月の利用者数は、29,356 人、で月あたりだと 2,700 人ぐらいです。

会 長 月何日稼働ですか？

支配人 月にだいたい 26 日前後です。

会 長 ご覧になっていてどんな感じですか？

支配人 私たちもたまに利用させていただくんですけれども、一定数は常にお客様がいらっしゃる感じではあるので、賑わっているという感覚はあります。私個人としては、桔梗屋さんの時と比較して客入りが少ないという感じはしないです。

会 長 別に比較しようとかではなく、どんな効果があったのかを知りたいといえますか。

支配人 指定管理者の目からしますと、例えば、特別展の時に関連のメニューなどもお願いしたりして、展示のテーマによっては関連メニューの導入も上手くできたりできなかったりはありますが、そういったお願いというのは、指定管理者としてもしていきたいと思います。

委 員 前回の協議会で話題になったカレーが不味いというのはどうなりましたか。

支配人 一応、声はお伝えしました。美味しいは美味しいと思います。最近はそのような声もないので、おそらくそこはできていると思います。

委 員 そこはちゃんとチェックしておかないと。

副館長 前回そういうお話がありましたので、所管している文化振興・文化財課の方に報告をあげさせていただいて、レストランの方で原因の究明をしていただきました。ちょっと不味いとか冷たいというその原因もわかりました。その対策もすぐ取りましたので、今は不味いとか冷たいというような苦情というのは、出ておりません。

会 長 よろしいでしょうか。せっかくおいでになられるのであれば滞在時間、滞在時間ができるだけ長くできるような、楽しみ方のできる空間というのが必要。

もう一つ、ミュージアムショップをもう少し工夫できないかなというふうに思っています。先ほどご報告いただいた、ポップアートをせっかくやっているのに、関連の物がどこにどのようなにあるのか、もっとグッと押し

出されてもいいような気がしますし、やれることはいろいろチャレンジしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員 私も前回カレーの話を伺ったので、この際と思ってカレーを食べてみました。私からすると、県外で育った人間からすると、山梨ってフルーツがあって、お野菜が美味しくて、椎茸とかすごく美味しくて感動したんですけど、乗っかっている具材が全体的に薄くって、色合いはいいとは思いますが、何か食べ応えがちょっと寂しかったですね。もし食べるもので難しければ、ランチョンマットに葡萄を施すとか、何か見た感じで、空間全体で山梨を楽しめるっていうようなことがあったらいいと思います。

また、今ミュージアムショップの話がありました。私は山梨県地場産業センターで働いておりまして、地場産品がたくさんあることをこちらに来てわかりました。せっかくワイン県山梨であったり、フルーツ王国だったり、素晴らしい産品がたくさんあるので、販売するのがもし難しくても、ワイナリーのことも、地図にマークしたりしていろいろな情報があるというだけでも楽しいかなと思うので、そういうところがあるといいかなと思います。

委員 実は私ども7月に展覧会をここでやって、以前は夕方からこのレストランを使って、レセプションを、そんなに時間もかからない1時間くらい、をやっていたんですけども、今、現状だとそういう使い方ができないんですね。非常に不便を感じていることは確かなんですよ。いつも授賞式を終わった後に、4時頃から1時間ぐらいお借りして、立食パーティーみたいな感じで、そういうような利用の仕方っていうのは、今できないので非常に不便を感じています。

あと、何度かお話ししたことがあるんですけど、展覧会の時にですね、駐車場の事なんですけど、搬入とか搬出の時にですね、非常にごった返しちゃって困る。なぜかというと、職員さんの車だと思うんですけど、搬入口に駐車場に朝からですね、止められちゃうと搬入で持ってくるときに、非常にごった返したり、危ない思いをしてる運転手さんが結構いるんですよ。職員さんの車がぜんぶ停まっているかとは言えませんが、朝から止められていて、だいたい7割ぐらい埋まっちゃってると、入ってくるときに非常に不便を感じてるということがあります。これは色んな方にお願

いをしてですね、やっていただいたんですけれども、それでもまだまだ今年あたりも苦労しました。

そのレストランの件も含めて、今の状態というのはちょっと、そういうふうな使い方というのは無理なのですか？時間的に。

会 長 まず2点、レストランと搬送時における駐車場のことでしょうか。

委 員 そうですね、その2点、なんか身内の問題で申し訳ないですが、現実的なことで、だから職員さんの車じゃないなんて言われちゃうと、私たちもどうにもできないんですけど、いつも苦慮しています。これは県民文化祭の時も、私が責任者をやっているものですから、同じ事が言えて、ごった返すということがあります。

会 長 というご指摘ですが、なにか。

副館長 レ스토랑の件ですけれども、これは今、行政財産使用許可という形になっているので、条件がどういうふうになっているかというところを、もう一度確認をさせていただいて、4時頃から立食パーティーができないというお話がありましたが、そういったリクエストにも対応できるのかどうかというところへんをレストラン側に確認してもらいたいと思います。

駐車場に関して私どもが承知しているのは、駐車場が混み合うような時には、職員は、実際には第3駐車場の方へ停めたりしていたりしますが、本当に混み合うときには別のところ、またいつもは借りてないようなところを借りて、そこに職員は駐車をその日はするというような対応もしておりますが、そこら辺の詳しいことは指定管理者から説明をお願いします。

支配人 詳しいといっても、今の説明そのままなんですけれども、事前にある程度搬出入の多く車が行き交うときには、私どもも第3駐車場の方へ常に停めるというような対応もしております。ただ一方で、美術館自体の、例えば来館者が多い日は、我々が第3駐車場に停めてしまうと、一般のお客さんの駐車場のスペースを使ってしまうということになるので、その辺の兼ね合いを見ながら、できる範囲での対応ということが実際あったと思うんです。ただ、基本的には搬出入の方の出入りが多くあるときは、職員は第3駐車場の方へという具合に、学芸課と総務課へお願いをしながら、館全体としてスペースを作る取り組みをしています。一般の方々でも停められている方がいるので、そのへん我々も把握しにくいところがありますけれ

ども、駐車場に関しましては、今後もできる限り対応できるように、我々もやっていきたいなと考えております。

委 員 その都度お話ししているんですけど、参加者の中にも結構協力的で、交通整理までしてくれている方もいて、非常に有難いんですけど、見えないところで、どういうふうなのかなと思うんですよね。

会 長 ご担当の方で今のような状況を共有されているならば、先ほどの搬出入のことを知らない一般のお客様が停めていらっしゃる可能性もあるということと、搬出入に関するルールって何かあるんですか。出展される方の搬出入をするための持ち込みのお話と認識していますが、例えば、このぐらいの時間帯にこのように使ってくださいというふうな、運用ルールってあるんですか。

委 員 それはその都度、オープンの時間とクローズの時間があるので、来るのは午前中なので8時45分から。終わりの方は、閉館時間の関係もあるので、あまり遅い時間にはできないので、普通は4時頃という形です。

会 長 そんなに1日中時間を使って？

委 員 搬入はだいたい午前中で終わってしまうので、搬入はだいたい8時45分から午前中という感じです。

会 長 この時間に納めてくださいではなくて、納めたら終わりですっていう、そういうルールですか。

支配人 お尻は厳密に5時でなくては困るみたいなお話はしていないと思うんですけれども。

委 員 一般の場合は1日中、10時から4時頃までなんですけど。

会 長 状況がわからないので、一般的に搬入出で混乱が起こるとすれば、時間を決めてその中で納めていただく、というような仕分けも検討の対象かなとちょっと思いながらお話を伺ったんですが。

委 員 搬出の 때가、だいたい3時半頃から搬出の一般の人たちが出るものですかから、その前の1時間前ぐらいに、美術館に集中しちゃうんですね。それで、ヒヤッとすることがありまして、車同士が衝突しそうになったこともあります。それも見ていますから、そこらへんのところをどうにかできればなあと思うんですよね。係の方は非常によく動いてくれています。だから一般来館者の車が見当たらないよう、そこらへんの徹底を、もう少しし

の方がいいんじゃないかなと思います。

会 長 ありがとうございます。ではその辺も踏まえて、ちょっと状況を伝えながら、運用ルールを検討いただくということをぜひお願いしたいと思います。

支配人 基本的にはもう一生懸命に全員で対応しております。利用者さんが第2駐車場に車を止めていることもありますので、ちょっとなかなかそのとおりできないことはありますが、我々でできることは、対応はしっかりしていきますので、よろしくお願いします。

委 員 質問と意見、両方あるんですけど、言わせていただくとまず、レストランの話は改修工事、当時のことをちょっと皆さんにご説明しておきたいんですけども、もとのところにレストランはなく、「ドーム」という9席ほどの小さな喫茶店が、現在の一般展示室の入口付近にありました。ここは1日中人が絶えないくらい、大変混雑するくらい素晴らしいスペースでした。そこは作家たちが、作品のことを語ったり、いい意味で、ある意味美術館の中心的な大変素晴らしいところでした。

美術館を改修をし、指定管理を導入する段になりまして、昔の実習室の奥をレストランに改修しました。非常に狭いですがレストランを設置することによって美術館を盛り上げようとして、その時に桔梗屋さんが入りました。夏はビアガーデンをやろうというので、従業員総出で今の中庭に椅子とテーブルを、毎日並べるような苦労をしました。ですが客は入らなかったんです。こういう言い方は失礼なんだけど、やっぱり車を置いてここまで来るには不便で、夜を利用してまでビールを飲みに来ない。

料理を作る上で、ホールよりも厨房は広いくらいがいいと思うんです。厨房が狭いので提供できるメニューに限りがある。そういうこの美術館には弱点がありましてね。ですから、かなり話題性のある、例えばフルーツパーラーにして、山梨の果物をメインにするというような、そういう特別なことを考えない限り、なかなか今のやり方でどんな業者が入っても、世の中の人たちを引き付けるようなレストランにするのはかなり厳しいと思います。

それと、冒頭言いました小さなカウンターが中心の「ドーム」という喫茶店、あの空間がいかに素晴らしかったか、あれを潰してしまったのが非

常に残念で、意見として言わせていただきました。

レストランで栄えていくというのはかなり難しい、特にスペース的にかなり厳しい、そういう条件の中で、一般公募するのかよくわかりませんが、新しいレストラン、あるいは美術館の有り様というのも、一度ここで思い切って、指定管理者もいるので考えてみるというのが重要じゃないかと思います。

教育普及のところで、学校教育現場はご存知の通り美術がどんどんどんどん授業が減って、先生たちもどんどん非常勤に入れ替わって、現場は美術の先生がどんどん辞めているような状況。一方で、学校教育の改革が行われる中で、体育の部活動と同様に文化の部活っていうのも影響を受けています。美術の部活もどういう形で美術館が関わって、子どもたちの美術教育を進めていくかっていうことも実は大きな課題になっているんです。私が勤務している南アルプスの教育庁からも、学校の美術部の子どもたちを受け入れてくれないかというふうな話をされたので、いずれそういう時代が来ると思います。社会のニーズや今の教育現場で起こっている状況を見ると、例えば教師のための鑑賞研究会というのを長い間やっているんですが、校長先生に対して、「出張にもならん、頭にきた。」という先生を何人も直接聞いているんですが、現在教師のための鑑賞研究会は出張扱いで参加できているのか、知っている範囲でお聞きしたい。

事務局

出張扱いでいらっしゃる方はもちろんいらっしゃいます。この間もポップアート展の鑑賞研究会があって、夏休みだったこともあって、非常に多くの先生に来ていただくことができました。最初申込みの時点で30人を超えていて、夏休み中だったんで、先生方も少し時間に余裕があって、学校に勤務しなければいけないその代わりとして出張扱いで美術館に来るという形ができたんじゃないかという話をしていたところです。そういうふうに、展覧会を開催する時期によっては、こう上手く先生方が出てきやすい時期があるんじゃないかと思っているので、まさに今回ポップアート展で得られたことから先生方が来やすい時期を今後、調整しながら考えたいと思っています。

委員

ありがとうございました。今日は委員さんの中にも校長会の会長さんもいらっしゃるの、実際にはそういう話題を校長会の中で汲んでもらって、

できるだけ忙しい現場の状況の中ですが美術館に、例えば小学校の先生でも、造形の教育をどうしたらいいかわからんなんて、平気で言っている先生も耳にするわけですが、そういう先生方ができるだけ、美術館へ足を上手く向けるような、来やすい環境を整備しながらやっていただけたらと思います。

もう一つ、前回、前々回と話しましたが、この協議会の時にぜひボランティアさんの活動を紹介してくださいとお願いした経緯がありましたが、今回もボランティアのことは何も触れてなくて、バラ園の話はありましたが、バラ園をきれいにしているのはボランティアです。なので、いつも言うんですけど、ボランティアさんの活動がこの美術館の活動の深い部分を支えていると思うので、是非にですが、協力員はこんなですよ、長い真夏でしたが夏をこんなふうに乗切りましたよ、ということを、どこかでご紹介をしていただければと思います。以上です。

会 長
事務局

他にいかがでしょう。

今のボランティアさんの話について補足します。20 ページにありますアートでトークですけれども、これの案内役を務めているのがボランティアさんになります。アートでトークをなされるに当たって様々な試行錯誤を経ながらやってきました。最初はボランティアさんの有志という形で担いたい方を募集するような形だったんですけども、それが解説のボランティアや案内のボランティアをしている方の中から対話型鑑賞をやりたいという方がいらっしゃって、前回の募集の時にいよいよ一部門となりました。1つの部門として対話型鑑賞のボランティア部門が立ち上がりまして、現在20名ほどが在籍されています。元々ボランティアの他部門だった方もいますし、新しくボランティアを始めたいということで、登録された方もいまして、なかなかの人数が集まったなということで、現在新しい方を含めて研修をしつつ、アートでトークのイベントを実施しているところです。アートでトークに参加された方がボランティアをやりたいと言って入って来られた新しい方も結構いらっしゃっています。

会 長

資料の7ページに指定管理組織体制という組織図があって、ミュージアムアテンダント、略してMAとありますが、これがボランティアの方の意味ですか？

支配人 これはカウンターでの案内や、展示室で監視業務をする指定管理のスタッフのことです。

学芸幹 それでは少し協力会について簡単にご説明したいと思います。実際、ボランティアは美術館協力会という団体に入って、協力員という名称で活動していただいております。開館当初からずっと続けていただいております。開館からずっと協力員でいらっしゃった方はご高齢になられて交替していられましたけども、今 160 名が会員になっています。その活動としては、館内の案内、情報、図書、ワークショップ、実技など、部門に幾つも分かれています。そして、2 年ごとに協力会への加入を更新していくんですけれども、今回新たに部門が設立されたのが、対話型鑑賞ということで、約 20 人になります。美術館の活動ができあがって行くにつれて部門が増えてきて、ボランティアさんも増えているというところがございます。

 そしてミュージアムショップもこの協力会で営んでいるというものになります。

会 長 ありがとうございます。他いかがでしょう。

委 員 私自身、対話型鑑賞というものをオンラインで行っているんですけれども、県立美術館さんでは、そういったオンラインでの発信というのを家庭の方に向けて行ったりはされないのかなというふうに思っていて、東京の美術館であったり、国立の近代美術館、そういったところでは、ご自身の美術館さんが持っている絵画で、対話型鑑賞を行っているっていうのがあったので伺いました。

事務局 元々そういう展開がうちでもできればと思いますので、ぜひいただいたことを検討したいと思います。今、アートでトークをイベントの形で行っていて、ボランティアさんがようやく実施できるようになったところですので、本当に滑り出しの状況というのがこの美術館の現状ではあります。そういう形で展開ができれば、将来的にはいいかなと思います。ありがとうございます。

委 員 私自身色んなところを美術館さんのオンライン鑑賞に参加して「わー、絶対これ見てみたい、行ってみたい。」と何度も思った作品に出会えたので、ぜひやってほしいなと思いました。ありがとうございます。

委 員 私は観光振興の立場で、かれこれ2年か3年出ているんですが、この資料は非常にわかりづらい。多分、寄せ集めの資料で、我々に説明しようと思っていないんですね。美術館でやっている活動に対して、どれだけ人をかけて予算をかけて集客がどれだけあって、こうこうこうだったということを説明していただいて、それに対して我々がこの博物館の館長さんにご意見申し上げるということが、在り方だと思うのですが、何かぞろぞろ報告するだけで、論点がどこにあるのか全く議題として、令和6年度の実績報告と令和7年度の事業予定がごっちゃになっていて、説明がですね、あっちにいてこっちにいて、また戻ってじゃあ指定管理はこっちですというふうな形でですね、美術館が一体となって、我々観光事業者のための施設になってくれているという感じが見受けられないんですね。組織にしても学芸課の中に、普及と学芸の方があって、じゃあ集客はどういうふうに考えているんだというふうな、組織体制になってないんじゃないか。政治のポピュリズムという言葉が言われて久しいのですが、やっぱり自分たちの殻の中だけで、あるいは学校教育、美術教育の側の中だけでやっているんじゃないくて、もうちょっと県民、あるいは観光分野ですね、何か新しい施策、レストランもそうなんですけれども、そういうものを是非展開して行っていただけたらなという意見でございます。資料をわかりやすく次回から変えていただければと思います。以上でございます。

会 長 事業報告だけでなくて起承転結のわかる記載を工夫していただきたいということですね。確かにボランティアの話もそうなんです、美術館単体で何がしかを完結してるんじゃないくて、まわりとの連携があって美術館の価値が高まったり、例えば今の集客や誘致だったりということを考えると、周辺との繋がりというのをもうちょっと色んな活動をシェアしていてもいいのかなというふうに、今ご意見を伺いながら私も感じました。もう少し俯瞰的な資料の作成を、次回楽しみにしております。

館 長 ごもっともお話ばかりで、我々もうちょっといろいろ勉強して、それで新たな形でいろいろ資料等をご提示させていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

委 員 資料を見させていただいて、来館者が減り続けていて、今、これは全国的な傾向なのかなっていうこと。そういうところは気にしなくて活動目標

の方の、アートへの触れ合い方に注力しているのかな。

質問しといておかしいんですけど、来る人が減ってもしょうがないんですけども、自分も同じように観光に携わっているので、気になったところ
です。

次に飲食の話ですけど、僕は県立図書館とか、文化ホール、YBS だとかやらしてもらったんですけども、他との兼ね合いもあって、働いている人が少ないんで、そこで何かイベントをやったときにその時間帯利用するっていうのは難しいかなとご苦労を感じ、大変だなと思って聞いていました。以上です。

会 長 先ほど指定管理の方 24 ページで、広報活動というのがあって、商談先で様々な旅行代理店との商談にあたったと。実際に広報活動で獲得した誘致、集客というのは、かなりあるんですか。バスや団体みたいな感じになると思うんですが。

支配人 そうですね、これをきっかけにツアー等で来ていただいたという例がありますけれども、ちょっと今、数字が手元にないのですが、東京からのツアーが中心ですが、このお話をきっかけにというのは事例があると聞いてはおります。

会 長 一番の商圈は東京かなと。

事務局 最近も横断道ができて、静岡方面からの人も来やすくなったという事情もあって、東海方面にも足を伸ばしていこうと考えています。

会 長 どこからの来客か来館かというふうなデーターはあったりしたんですか。

支配人 他県という話をすれば、東京とか神奈川が多くなります。静岡もそれに次いで結構数字を伸ばしてきています。愛知県からもかなり来ています。愛知あたりまではなんとか我々も営業ができるかなというふうな感じ
です。

副館長 先ほど委員の方から、観覧者数が減っている、そこらへんはどうなんだというお話がありましたが、9 ページにもありますとおり、観覧者数というのは激減しました。これは当館だけの問題ではないんですけども、コロナのときに、臨時休館があったのでだいぶ落ち込んでしまった、それが令和 2 年度だったと思います。その時は年間で 75,000 人の観覧者数まで落ち込んだわけなんですけれども、これは個人的な見解になるのかもしれ

ないんですが、じゃあ実際に令和5年の6月にコロナが5類になって、その後どうなったんだというところを見ても、今年度の数字を見て6月まで昨年度と比較して102.7%、そんなに増えてはいないですし、コロナ前と比べるとまだ7割とかそのへんでとどまっている感じです。恐らくコロナというのは、もう収束したという状態になってなくて、コロナというのはまだ今でも発生してますし、特に高齢者の方は、油断すると非常にうつりやすいということで、コロナを気にした行動変容の現れではないかと感じています。

だからといってですね、そうでもないなと思っていまして、特に昨年度の冬に開催した超絶技巧展の時は、これは本当に冬の時期にあってもたくさんの方にお越しいただいた。テレビのCM等で告知する際に、実際の観覧者の驚きと感動を伝えるという内容が、視聴者の方に伝わったのかなというところがありまして、1月、もう本当に寒くて外にも出たくなるような、そんな時期だったんですけれども、平日であっても普通に1,000人を超えるような来館者がありました。最終的には約28,000人ということで目標を大きく上回る数値になったということで、ここは観光方面にも大きく貢献できたんじゃないかなと思っています。前回の協議会の時もお報告させていただきましたが、80代の女性の方が100歳を超えた母親を連れてきたと。十数年ぶりに美術館を訪れたということで、非常にそこは私も感動しました。やはり内容によっては来ていただけるんだなと思っています。

これから期待しているところで申し述べますと、9月から山下清展が開催されます。山下清という芸術家は非常に幅広い層に人気があります。テレビドラマでやったということもありますが、内容的にも期待していただいていいと思うんですが、たくさんの方にお越しいただけるんじゃないかなと思っています。合わせて文学館の方でも、9月から11月末にかけて、企画展で南総里見八犬伝という展覧会を開催しますから、相乗効果を得る中で、またそっちの方もPRをする中でこの美術館、文学館、芸術の森公園を一体として魅力をPRしていきながら、集客に結びつけていって、たくさんの来館者にお越しいただけるものと期待しております。

委 員 さっきのレストランのことに戻りますよ。桔梗屋さんの後はどちらさん

ですか。業者さんは。

副館長

これは県で公募をかけまして、株式会社 KEIP さんという、障がい者を雇用している会社が経営しています。レストランの名前がコレルという名前で、「誰でも来れる」というような、それだけじゃないと思うのですが、コレルと言う名前で実際に障がい者の方を雇用して営業されています。

委員

それはそうだと思うんですけど、それをあんまり PR に使っちゃあ、申し訳ないと思うんだけど、そういう雇用もしているということも、ジェンダーとかいろいろ問題があるので、障がい者雇用もしてますよということも、利用される方にご理解いただくってことも 1 つ、使っていただくということになるんじゃないかと思いますし、流行っている店を人がいないからという理由でパタンと閉めちゃうとか、そういうお店も結構あるらしいんですね。成り立つような形にしていかないと、やってくれる人がいたからよかったと思いますけれども。

それと学校教育の問題もありますよね。私どもは今年が開局 55 周年なんですけれども、開局 3 年目から UTY 教育絵画展という小中高生の絵の展覧会を毎年やって、こちらで展覧会をさせていただいてます。今年までは、教育現場の先生たちにも協力いただいて、学校ごとに作品を出していただくというやり方で来てご協力いただいたんですけども、学校の現場の先生方たちの働き方改革とか、そういう問題があって、来年は学校の窓口には一切できませんっていう話が教育委員会からありまして、学校単位じゃなくて個々にしてくださいと。今年が 750 点集まりまして、全部ここに展示させていただいたんですけども、この話がくる前に聞いたら、小学校は 7 校ぐらいしか応募がないんですね、高校は美術部があって先生方も促してくれているらしいんですけど、小学校は 7 校しか山梨県下で出して来なくなっちゃったのかなというので厳しくなってきたなという感じがしました。

今年は 8 月の終わりにちょうどここで表彰式をしたんですけど、その日は日曜日で、隣の実習室でね、親子で 3～40 人、帰りに覗いたらテーブルをくっつけたところに作業をされてましたけど、そういうことをもちろん PR されてると思うんですけど。去年の教育実習生の子は小さい頃からからしょっちゅう美術館に来てた。遊びに行ってたっていう子だったんです

けど、その子は教員になれたっていうのがあったんですけどね、こういうことがあったよ、ああいうことがあったよっていうのを、うまく発信できればいいなと、私どももお手伝いするようにしますんで。

それと、駐車場すぐいっぱいになっちゃうし、なかなか大変ですよ。先ほどもね、年に1つや2つ、誘客のできた古いやつをやるってことも、考えた方がいいんじゃないかと思います。

もう一つというのは、結構ね、ピカソ展とか奇抜なCMでお客様が結構お見えになったというようなことがあるんで、少しでもPRできるようにされたらいいんじゃないかというふうに私は思いました。

会 長
委 員

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

今日はいろいろお話を聞かせていただいて、すごく勉強になったんですけども、私は障がい者アートの普及活動をさせていただいております。今、皆さんのいろんなお話を聞いていく中で、すでに県外の方で広く障がい者アートを広げていらっしゃる会社の社長さんとお話ししたときに、ちょっとヒントがあるのかなと思ったのですが、そちらの県では、サッカーのチームと連携を取って、積極的に障がい者の方にボランティアに入ってもらったりとか、会場に障がい者アートをちょっと展示したりとか、そんなようなことで、かなりサッカーを軸に学生だったりとか行政とかと組んで、今かなり大きく認知されているような環境になっているのかなと思ったんですけども、私が日頃、障がい者の作家さんとか、そのご家族だったりとかとお話しする中で、山梨のヴァンフォーレの根強いファンで障がいがある方たちもいると思うんですよ。それと同じように、ここも、県立美術館のファンというかここにすごくブランド力を感じていらっしゃるご家族というの、すごく多いという印象がありまして、私がそういうアートのことをやっているからかも知れないんですけども、やっぱりここに来ることがすごく喜びだったり、ここに関われることがすごく価値があるって感じていらっしゃる方たちがすごく多い印象があるので、さっきのスポーツの話じゃないんですけども、もう少し障がいがある方、今の支援学校もどんどんマンモス化して増設されているような状態で、かなり障がいがある方も増えてきているように感じたりしているので、そういったところで、今の委員もおっしゃっていましたがレストランもそう

いうコレルさんが入っているところも PR の 1 つにしてもいいのかなと思うんですけども、そういったところの連携というのも、今後こうやっていくことで都内からこの山梨っていうのは、障がい者の方たちにとっても一番来やすい距離感というのを聞いた事があって、長野県の方でも、観光に力を入れている方々たちからすごくうらやましいと、都内から 1 時間半で来れるというのは、長野だと実際ちょっと遠いんだよという話を聞いた事があったりするので、そういった観光の視点からもその福祉分野というのも視野に入れていってもいいのかな、なんて今日は皆さんのお話を聞きながら思ったので、是非連携できるところはしてもらえたら有難いなと思いました。

副館長 障がい者アートの話がありましたので、承知している範囲でのお答えになりますが、障害福祉課というところが主になって、障がい者アートの推進に取り組んでいます。現に、甲府市内の会場とかを使って障がい者アートを飾るとかをやったりとかして、障がい者支援ということをしています。美術館もアートを扱っていますので、連携が何かできないかということで、障がい者アートを推進している方、もしくはアールブリュットの普及を推進している方と打ち合わせと言いますか、そういったことも始めたところですので、何か可能性があれば事業が生まれるかも知れませんが、ちょっと今の時点では、具体的にはなっておりません。

会 長 今のお話は、障がいを持たれた方々が来やすい、気軽に来館できるようにと受けとめたのですが違いますか。

委 員 そうですね、アートを展示するというよりは、もう少し気軽に来館ができたりとか、できてくるといいのかなと思っています。

会 長 いろんな刺激を発信し受信できるような場であってほしいという、そういうことでよろしいですか。

委 員 何点かお話させていただきます。

一つ目は、この会に参加させていただいて、この美術館が幼少期からアートに触れるというところが、改善されているな、実現されているなというふうに思います。特に小学生とか中学生とか、見るだけではなかなか満足というか共感できないときに、ここでクリエイティブに体験できることがすごく改善されてるなということが、インスタグラムなどで感じていた

ので、とても素晴らしいなというふうに感じていました。なので、見学者の方が減っているんじゃないかというお話の中で、なかなかツアー客の方が集まらないというお話も踏まえて、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県の小学校、中学校の先生たち、学校教育の方が集まる会合に出向いていかれて、こういった収蔵物がありますよ、こういうふうに使えますよということと一緒に、この時期に来ていただくと、こういうところをアレンジするから、子どもたちが体験がここでできる山梨に旅行に来ませんかという、小中学校の教育プログラムを呼び込むというアプローチというのはいいいんじゃないかなというふうに思いました。

二つ目、超絶技巧展に来させていただきました。大変面白かったです。その時は主人と一緒に参りました。最初、主人は嫌だな～みたいな話をしていたんですが、たまたま CM で参加された方の CM を見て、ただの開催告知だけではなくて来た方たちの感想、生の感想をテレビで見て、主人が行ってみようかなという気持ちになったので、これからもこういった形で行った方の声を載せながらの CM 活動っていうのは一県民としてすごく心に響いたので、また続けていただければと思います。

最後、バラ園の広報が大変よかったということで、私もバラ園って素晴らしいなと思います。それ以外でも、秋の紅葉で、園の街路樹ですか、あの美しさっていうのは目を見張るばかりのものなので、ぜひ秋、冬、四季折々のこの景観の良さっていうところも、県内の方にアピールできるところだと思いますので、発信の方を応援しております。

支配人

今年、ちょうど公園のビックアップルと富士山の画像を使ったポスターを作りました。まずは気楽に来ていただけるというようなところも含めて、そういったものを作って、各所に貼っていただいたりしています。まだ今年作ったばかりで、そこまで認知されていないかもしれないんですけども、ちょっと前にローソンで富士山が、みたいなのでかなり人が集まって問題になっていましたけれども、うちの公園から見える富士山の方がよっぽどきれいだと思いますんで、その辺りを自信を持ってアピールしていきたいなと思っています。県民の方へという話、本当に山梨からお客様を集めていきたいと考えています。

SNS なんかを使いながら上手く発信をして行くのですけれども、なか

なかどういうふうに効率的に知らせていけばいいかいろいろ研究とか検証しながら、やっけていまして、私どもも、本社の方も含めてですね、色んな知見を集めて、今後発信をして行こうと考えておりますので、ぜひご協力いただきながらですね、またいろいろご参考になることを話かけていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

会 長

時間も予定時刻を過ぎておりますので、これにて質疑は終了させていただきます。(2) のその他に移りますけれども、何かありますでしょうか。よろしいですか。ではないようですので、以上で終了させていただきます。ご協力いただきましてありがとうございます。